

こころのケアチームに参加したひとりとして

荒田 稔氏

インタビュアー 山岸 外志子

当法人設立時よりご尽力を頂いております荒田稔氏が、山桜の咲く季節4月下旬から5月上旬にかけて石川県の要請で東日本大震災の被災地（宮城県石巻市）へ、「こころのケアチーム」の一員として赴かれました。

荒田氏は、中越地震や能登半島地震の際にも支援に行かれた経験から被害の情報を収集し、メンタル・物資の両面から準備されて行かれたそうです。そこで、被災地の現状を見てこられた荒田氏に、避難所での様子や災害に対しての心構えをお聞きしました。

山岸… 大変な状況だったと思いますが、このような災害に遭った時は、どんな状態になってどんなことに気をつければいいのでしょうか？

荒田… 災害では、被災された直後は感情がマヒし、茫然自失として何もわからなくなるような状態になります。その後に、気持ちの昂ぶりから眠れなくなってしまうような[ハネムーン現象]という状態に陥ります。健康を維持するための重要なキーワードに、災害時[安全・安心・安眠]の3つの[安]があげられます。具体的には危険から自分の身を守る安全。食料や物資・ライフラインの確保による安心。そして健康維持と十分な休息と安眠。そういった3つの[安]を保証するための環境整備が本当に大事だと思います。

山岸… こころのケアチームの一員として参加されて、避難所で何か役に立ったものとかありましたか？

荒田… そうですね。避難所では毛糸1本さえあれば高齢の方とアヤ取りができたり、トランプ・折り紙は、初めて会った方と気軽に話し合えるきっかけを作る手軽なモノとして重宝しました。また、ろうあ者の男性の方で、私の名刺を見ると自分と同じ[稔]という名前だったことから親しくなり、私の名刺を自分のダンボールに貼って喜んで頂けました。意外と身近なモノが心を癒してくれたり、人ととの交わりに役に立つことがありました。

山岸… 最後に、日頃から災害に備えて心がけておくと良いことなどありませんか？

荒田… 日々の生活の中では次の3つのことあげられると思います。まずは、健康管理に気をつけて処方される薬があれば薬の名前をメモして携帯すること。そして3日分ほどの薬を持ち歩くこと。次に日頃より家族・知人で連絡網の確認や整備をしておくこと。最後に、人と人との絆を深め、仲間を作り助け合うことが日常からとても重要だと思います。他にも防災の日には皆で防災について話し合ったり、避難場所の確認をするなど、平素で学んだことを非常時で活かせるよう、日頃から意識することが、とても大事なことだと思います。

山岸… 荒田さん、ありがとうございました！

編集後記

秋の夜長。
虫の音をBGMに、読書を楽しむ
ことにしました。

この秋は、何冊読もうかな…。

江端

編集人：社会福祉法人なごみの郷

連絡先：〒923-0851

石川県小松市北浅井町123

TEL(0761)23-7232

FAX(0761)23-7284

E-mail : iruka@d4.dion.ne.jp

ホームページアドレス

<http://www.nagomi-no-sato.or.jp>

発行人：北陸障害者定期刊行物協会（富山市今泉312）

定価 50円



HSK 每月十二回
一九九四年八月四日 第三種郵便物承認
一・二・三・五・八・十・十三・十五・十八・二十一・二十三・二十五・二十八日 発行

増刊HSK

なごみ通信

今月の花：彼岸花



No. 35 2011. 9

精神の病気ってどんな病気ですか！ — 統合失調症について —

岡本病院 院長 岡本 進 先生にお聞きしました

統合失調症とはどんな病気かという問い合わせに対して私は、患者の内部に病が潜んでいるのではなくて、この病気のはらむ問題の多くが外部との関係（家族との関係、友達との関係、医者・治療スタッフとの関係、職場や社会との関係）に大きく関わっていると考えています。

精神病理学では[内因性]の精神障害に分類されていて、この[内因性]という言葉は、[原因不明]ということと同義だそうです。ということは統合失調症の人は原因のわからない何かを抱えた人だというに過ぎません。

統合失調症は、少し前までは[精神分裂病]と呼ばれ、その呼び名には昔から様々な偏見がつきまとっていたことも事実です。

ある[気分障害]の患者さんが、ある患者さんの一挙手一投足が気になって、怒りが収まらず精神状態を損ねるような状態になっていた時に、私から、「その方はおそらく[統合失調症]と診断されている人であなたは相手の言動が理解しづらいとは思うが、病気のせいもあって期待するような配慮をすることが難しいのだと思う。悪気を持っているのではないだからその態度に一喜一憂するのはできるならやめたらどうか。」という意味のことを進言しました。その患者さんは[統合失調症]という自分とは別の病気を抱えていると理解してくれたようでしたが、残念なことにその方の言動に寛容になるということもなく、むしろその方を含めて[統合失調症]と診断の付いたほかの患者さんたちを[上から目線]で眺めることが目立ってきたように思います。このように精神医学的な病名は症状とともに非常にデリケートな部分を持っているので今後も充分注意して使う必要があると思います。

また、患者さん一番の治療者は、やはり一番関わっているご家族の方であり、本人の気づいていない異変・状態の悪化がわかるのもご家族です。本人は、相談することができないこともあるのでご家族の方が、適切に対応することが大事だと思います。

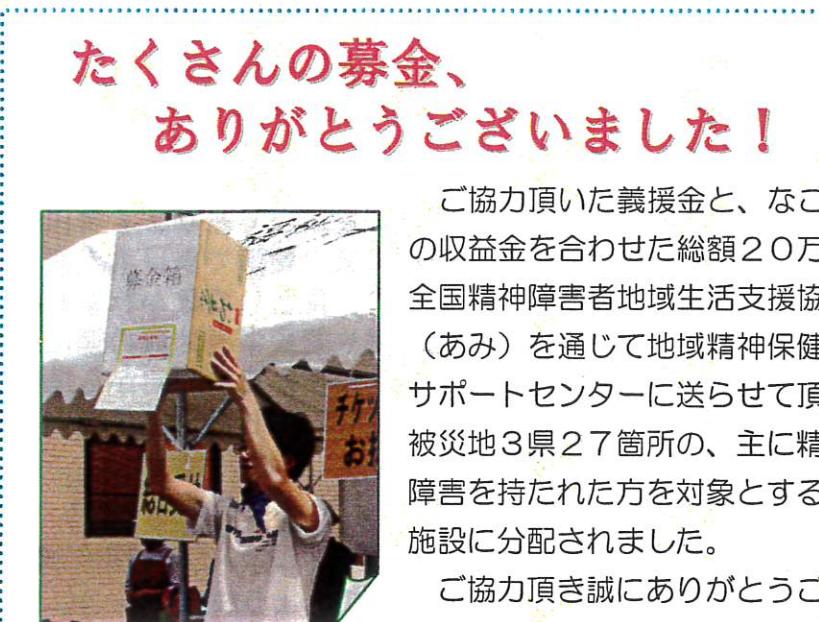
そのためにもなごみの郷が、ご家族の方から何かあったらなごみの郷へ相談に行こうと思って

もらえる事業所であることが大事だと思います。今後もなごみの郷は、地域で暮らすご家族の方にとって相談しやすく、また地域のご家族の方々に寄り添うような事業所であって欲しいと思います。

まだまだお伝えしたいことが沢山ありましたが、紙面の都合上割愛させていただきました。岡本先生には、お忙しい中大事な時間をとっていただき本当にありがとうございました。

(瀬戸・小川 記)





第12回 なごみ祭

「今、わたしたちにできることを！」

平成23年6月4日(土)

「なごみの郷」の思い・・・

今年のなごみ祭も大変良い天気に恵まれて無事に開催することができました。

「今、私たちにできることを！」をサブタイトルに東日本大震災で被災された方々を支援したいと利用者や家族会、メンボラ友の会、スタッフが思いを一つにして開催させて頂きました。当日はこまつ看護学校の学生さん32名の参加や市内3か所の福祉施設の出店、当法人の関係業者28社の協賛を頂く等、例年にも増して盛大に開催できることについて感謝申し上げる次第であります。

当日の協賛金、収益金による義援金は被災を受けた精神障害者施設に直接届くようにさせて頂きました。遠い石川の地から少しでも「なごみの郷」の思いが被災地に届けば良いなと思います。ご協力ありがとうございました。

理事長 小杉 修



苗代小学校合唱団の発表！

透き通ったすばらしい歌声に、こころが癒されました。